

導入期から普及拡大期のステージへ



発電量 자체は小さいものの、未利用エネルギーの活用という点で注目されるのが小水力発電。丸紅は今年4月、山梨県北杜市で小水力発電所の運用を始めた。一つの農業用水路に三つの発電所を設置。これにより、建設期間の短縮、メンテナンス時の効率性など事業性を高めたのが特徴だ。

発電量が気象条件に左右される太陽光や風力などと異なり、安定電源になるのが利点。丸紅は子会社の三峰川電力（東京都千代田区）を通じ、小水力発電所を6カ所保有。これを20年までに30カ所まで増やす計画だ。

デンヨーは河川向けマイクロ水力発電装置を発売

再生可能エネルギーのヨナーは、システムを構成する主要機器として需用拡大が続く。主に産業向けのパワコンを手がける安川電機は、今春から家庭向けの小容量タイプを投入。変換できる電力の最大値(最大定格出力)は、4・5キロワットと5・8キロワットの2機種。変換効率は導入が活発になるに従い、周辺ビジネスへの波及も進む。配線、架台、設置業務、蓄電池など幅広く見込まれ、産業創出への期待も大きい。

太陽電池などで作った直流電流を交流電流に変換するパワー・コンディシ

関連産業へも波及

%を確
ブで騒
えた。
ラ一向
ンアツ
量買取
る。

や蓄電池を調達してシステム化するほかソフトウ
ェア開発も進める。SI全般を網羅する体制を整
え、スマートグリッド（次世代電力網）への参
画も視野に入れる。

このほか、最近では再生可能エネルギー導入支
援コンサルティングとし
度、太
システィ
業を開

みを生かしながら架台
然環境や地域特性などを考慮した上で導入計画を策定することが欠かせない。また、風力発電システムへの負荷や回転数を遠隔操作しながら低コストに常時監視を行うなど、メンテナンス体制拡充へのニーズも強まってい
る。

始する。大手太陽電池メー
カー向けパワコンのO
EM（相手先ブランド）
供給で高シェアを持つ強
て事業化の可能性調査を
行う企業や、メンテナン
ス専門に行う企業なども
続々と生まれている。再

小水力 安定電源に

再生可能エネルギーの固定価格買取制度スタートを機に、多くの企業が太陽光や風力、小水力、地熱、バイオマスなどの発電事業に続々と参入。関連産業も活気づいてきた。さらには国のエネルギー基本計画の見直しにより、原子力への依存度が減る一方、再生可能エネルギーにかかる比重はますます大きくなる。導入期から普及拡大期へのステージに進み、中長期的に巨大なビジネスとなるのは間違いない。



東京電力のメガソーラー「浮島太陽光発電所」(川崎市川崎区)



丸紅が権益を取得した英國ガン
スリート・サンズ海上風力発電

メガソーラー建設ラッシュ

ケ浜のメタガ（ユーラスエナジー）と
言うように、しばらくは建設ラッシュが続きそう
だ。

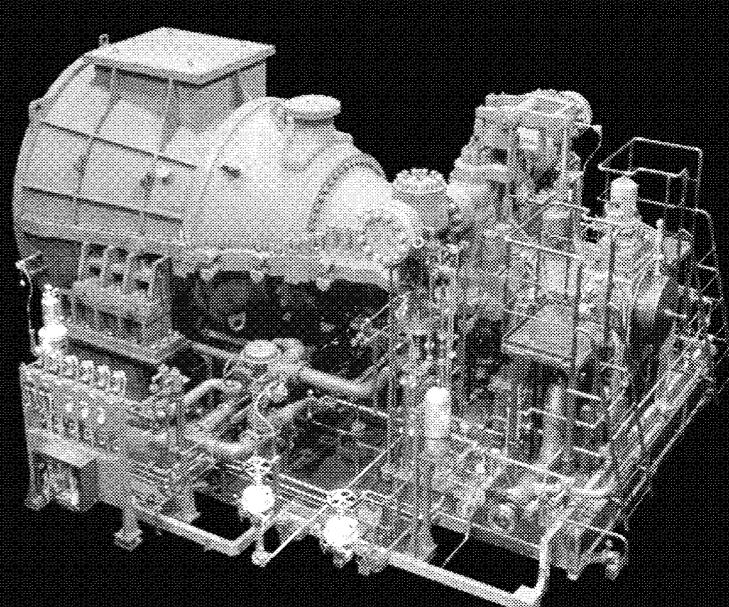
事業者が家庭や店舗、工場などに太陽電池を置いて発電してもらう「屋根貸し」事業も有望だ。既に神奈川県が県立の学校や福祉施設など県有施設で実施すると発表した。太陽光パネルを販売する小売業者や住宅会社、ベンチャーカンパニーなども事業化を狙っている。

一方、風力では中長期的に洋上式が有望視されている。陸上は立地の制约が多く、環境影響評価に数年単位の時間がかかる

サンズ発電所に出資、事業参画した。先行する歐州の事業ノウハウを蓄積しながら、日本での本格展開を見据えている。その視線の先には、福島県沖で行われている実証研究プロジェクトがある。メーカー・ゼネコン、商社が総力を結集。現在、実行中の第1期では200キロワットの発電設備を設置した。2013年15年度の第2期では7000キロワットの設備を追加設置し、事業化の可能性を探る計画だ。

再生可能エネルギー

Generating Power for Human Life, SNM



 新日本造機株式会社
〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower

〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
TEL.03(6737)2634 <http://www.snm.co.jp/j/>

アメリカ向 67,000kW
軸流排気型蒸気タービン